

令和6年度 調布市立富士見台小学校 学校経営計画（学校長 小俣 弘子）

学校の教育目標	
<p>命の大切さの自覚とともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重する人権尊重の精神を基調とし、互いのよさを肯定的に捉えながら、多様な他者と折り合いつつ協調することのできる児童をはぐくむ。また、心身ともに健全で国際化、情報化など社会の変化に対応できる人間性豊かな児童の育成を目指す。そのために次の教育目標を設定する。</p> <p>㊦ 深く考える子（知識や技能を身に付け、それらを活用し、問題の解決に向けて追究することができる児童）</p> <p>㊧ 自他を愛する子（自他を尊重し、認め合いながら協力して行動することができる児童） ㊨ 自ら鍛える子（自分のめあてを自覚して、工夫しながら粘り強く取り組むことができる児童）</p>	
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像	
<p>1 自分の思いや考えを表現し、他者と協働しながら自分を伸ばすことができる学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童が自ら自分のよさや可能性を伸ばし、自己肯定感が高まる学校</li> <li>相手を大切にしたいあひさつを交わす学校</li> <li>特別支援教育を推進していくとともに、通常の学級・特別支援学級・特別支援教室の組織的連携をし、個に応じた指導や体制を行う学校</li> </ul> <p>2 安心・安全な環境の中で楽しい生活を築くことができる学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人を価値ある存在として尊重することができる。</li> <li>いじめや不安のない学校</li> <li>事故やけがのない学校 危険を予測し、自ら判断して回避できる能力を育成する。(交通、生活、災害、食、授業など)</li> <li>災害等に備える学校 教職員の見守り体制の充実</li> </ul> <p>3 信頼される学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域や保護者、外部の教育力を積極的に取り入れ児童に生かす学校</li> <li>教職員は、保護者や地域の方とよりよい連携が図れるように、サービスの厳正を徹底し、傾聴を大切にしながら「納得」と「信頼」を得られるように努める。</li> </ul>	
<p>ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)</p>	<p>1 児童は、明るく挨拶ができる児童が多い。しかし、自分に自信がもてなく受け身な姿勢でいる児童も見られる。この現状を受け「自分のよさを育てよう！友達のよさを伝えよう！」をキャッチフレーズに自己肯定感を高めることに重点を置き取り組んでいく。</p> <p>2 毎日過ごす学校が、自分の居場所として安心できる環境にしていく必要がある。そのためには、「発達支持的生徒指導」の段階を重視し、いじめや不登校につながる心配がない集団作りを行っていく。 また、安全であるということは、学校生活の根底にある。児童自ら判断して、安全な行動がとれるように指導の充実を図ると共に、安全な環境を提供することを重視していく。</p> <p>3 地域や保護者の方は、全体的に協力的な方が多い。地域や保護者の方に信頼されることで、児童への学習効果が上がると考える。また、地域の方との連携を密にすることで地域に愛着をもつ児童の育成にもつながっていくと考える。</p>
中期的な経営目標	
<p>1 自他共に一人一人を価値ある存在として尊重し、いじめや不安がない安心して過ごすことができる環境づくりをする。</p> <p>2 主体的で対話的な学びを通して自ら問題を解決し、自分の可能性を伸ばしていく児童を育成する。(自己肯定感の向上)</p> <p>3 健康保持・体力増進に努めるとともに、自分の命を大切にするための安全な生活ができる児童を育成する。</p> <p>4 全ての基盤となる言語能力と情報活用能力の向上を目指し、言語環境を整えるとともに読書活動の推進や対話的な学びの充実を図る。</p> <p>5 通常の学級・特別支援学級・特別支援教室等の組織的連携を図りながら、個別最適化した特別支援教育を推進していく。</p> <p>6 保護者・地域と連携し、学校情報を共有し共に児童を育てる意識の向上を図るとともに、CS へ向けた理解促進に努める。</p> <p>人・組 職層に応じた自身の役割を自覚し、学校経営方針を実現させるための取組を工夫しながら取り組むことができる組織。</p>	

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>		
1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
<p>(1) 取組目標 (具体的方策)</p> <p>① 自他共に大切にしている児童を育成するために、人権尊重の精神に基づき、多様性を認める授業や活動を実践し、誰に対しても相手を大切にしたいをもち、あいさつなどの言葉遣いや行動に表すことができるようにする。</p> <p>② 「学習&amp;生活のルール」を全校で共有し、規律の定着を図ることで安心できる生活環境を整える。また、いじめに関する授業の実施及び研修を通して、教員の指導力向上を図り、いじめのない安心した環境を作っていく。</p>	<p>(1) 取組目標 (具体的方策)</p> <p>① 自ら課題をもち、主体的、対話的に考え、問題解決できる児童を育成する 教員は、授業改善を積極的に行う。【タブレット端末の利活用、ユニバーサルデザインの視点(ハンドサイン等)、少人数指導等]</p> <p>② 自分のよさや可能性を伸ばすために自らを鍛え努力を積み重ねると同時に、一人一人の頑張りを周りの人が認め、褒め、励ますことで自分に自信をもち、自己肯定感や自己有用感を高めるようにする。</p>	<p>(1) 取組目標 (具体的方策)</p> <p>① 安全面(食・災害・交通・生活等)において、児童には、正しい知識を身に付けさせるとともに、教職員全員の危機管理意識を高度に保つ。教職員全体で、元保護者による講話及び年3回の食物アレルギー研修とシミュレーション訓練の実施を通して、対応マニュアルの周知徹底と確実な実施を行う。</p> <p>② 体力向上を図る取組や外遊びの推進、運動会を工夫して実践し、運動の楽しさを味わわせる。また、体力テストを通じて課題を見つけ、改善に向けて取り組むようにする。</p>
<p>(2) 成果目標 (数値目標)</p> <p>① 学校評価アンケートにおける肯定的評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「自他を愛する」(児童)に関する項目で91%以上を目指す。(R5…89.9%)</li> <li>「自分はよく挨拶をしている」(児童)で、90%以上を目指す。(R5…87.5%)</li> </ul> <p>② 学校評価アンケート(児童)において</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「基本的な生活習慣」に関する項目で85%以上を目指す。(R5…82%)</li> <li>「学校には友達がいる楽しい」で90%以上を目指す</li> </ul>	<p>(2) 成果目標 (数値目標)</p> <p>① 学校評価アンケートにおける肯定的評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「学力定着 分かった できた」(児童・保護者) 91%以上 (R5…89%)、</li> <li>「少人数指導」(児童) 85%以上 (R5…84%)</li> <li>「タブレット端末を積極的に授業で使っている」(教員) 100% (R5…92%) を目指す。</li> </ul> <p>① 学校評価アンケート(児童)において</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「自分にはよいところがある」で83%以上 (R5…80%)</li> </ul>	<p>(2) 成果目標 (数値目標)</p> <p>① 児童のけがや食物アレルギー事故及びヒヤリハット事例のゼロを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価アンケート(児童・保護者・教員)「安全・安心」の項目で95%以上 (R5…93%) を目指す。</li> </ul> <p>② 学校評価アンケート(児童・保護者)において、健康教育の項目への肯定的な回答90%以上 (R5…89%) を目指す。</p>

す。(R5…89%) ・「いじめは、どんな理由があってもいけないこと」で100%を目指す。(全国学力調査・質問紙)	・「周りの人から認められたり、褒められたりしている」で80%以上(R5…75%)を目指す。	
学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>		
4 言語能力・情報活用能力の向上	5 特別支援教育	6 地域との連携
(1) 取組目標(具体的方策)	(1) 取組目標(具体的方策)	(1) 取組目標(具体的方策)
① 協働的な学び(自分の考えをもち認め合い高め合う中で学習を深める)の充実を図る。 また、タブレット端末等を活用し、必要な情報を集め判断する活動を通して、言語能力・情報活用能力の向上を図る。	①計画に沿った特別支援学級児童と通常の学級児童との交流・共同学習を進め、多様性尊重への理解促進を図る。	①「地域学校協働本部」の活動を更に充実させ、「放課後学習教室」や「漢字検定」、外部人材の活用等の取組を児童の学習意欲向上につなげていく。 また、令和7年度から始まるコミュニティスクールの準備をすすめる。
②年間2回の読書月間を中心に読書活動を推進するとともに、日常的な言葉遣いの指導等を通して、言語感覚を養い、豊かな言葉の獲得を目指す。	②特別支援教室や個別指導等での学習が、在籍学級での指導・支援に活かされるよう、専門員やコーディネーターを窓口として円滑な連携が図られるようにする。また個別最適化した支援や環境を提供できるよう相談体制の充実も図る。	②学校だよりやホームページ、すぐーる、クラスルーム、保護者会等を通じて学校情報を共有し、共に同じ方向を向いて児童を育てる意識を高める。
(2) 成果目標(数値目標)	(2) 成果目標(数値目標)	(2) 成果目標(数値目標)
① 学校評価アンケート(児童・保護者)において、 ・「思ったり考えたりしたことを話し合っている」で87%以上(R5…85%) ・「ICT機器の活用」で95%以上(R5…93%)を目指す。	①・かしわ学級との交流機会を各学年で位置付ける。(月1回以上)また、かしわ学級が各学年との交流機会を設定する。(学年ごと1年11回以上) ・人権週間等において、多様性を理解する授業を設定する。(12月に各学級1回以上)	①学校評価アンケートにおいて、「地域学校協働本部」(児童・保護者)への肯定的な回答87%以上を目指す。また、保護者の「分からない」への回答12%以下を目指す。
②学校評価アンケート(児童・保護者)において、「読書活動」項目への肯定的な回答83%以上(R5…80%)を目指す。	②学校評価アンケート(児童・保護者)において、「相談体制」に関する項目で児童92%以上、保護者75%以上(R5…児童91%保護者71%)を目指す。	②学校評価アンケート(保護者)において ・「開かれた学校 情報発信」に関する項目で95%以上(R5…95%)を目指す。

人材育成・組織運営
<ul style="list-style-type: none"> <li>・主幹教諭をリーダーとして主任教諭の能力を生かしたOJTの充実(月1回)を図る。(若手教員の育成、授業力の向上)</li> <li>・調布市教育委員会の研究推進校を受けることで2年間を通じて「安全教育」について組織的に研究を積み重ね、児童の安全な生活につなげていく。</li> <li>・組織の一員として、担当の分掌に責任をもち、前年度踏襲にとどまらず、校務改善に向けて改善案を提案する。(自己申告時目標設定)</li> <li>・教員が健康で澆渌と児童の教育に邁進できるように、ライフワークバランスを推進する。(在校時間の管理 月平均45時間以下70%以上)</li> </ul>